

2 平成27年度三重県立高等学校募集定員総数の策定について

1 全日制課程

(1) 県内における平成27年3月の中学校卒業予定者は、平成26年3月の卒業生18,382人に比べ、585人減少し、17,797人となることが予想されます。

(2) 平成27年度の県内全日制高等学校への入学者数の算定にあたっては、前年度の本県高等学校進学状況の実績及び県内中学校3年生の進路希望状況等を勘案して、全日制進学率を92.2%、流出入率を98.7%としました。その結果、平成27年度県内全日制高等学校入学者数を前年度の16,756人に比べ560人少ない、16,196人と見込みました。

(3) このことから、県立高等学校全日制募集定員総数は、前年度の入学状況の実態や県内私立高等学校の募集定員等を踏まえて、前年度の13,065人に比べ465人少ない、12,600人とすることとしました。

2 定時制課程

前年度と同数の770人を募集することとしました。

3 通信制課程

前年度と同数の500人を募集することとしました。

《 参 考 》

中学校卒業生数の推移と予測

平成26年5月1日 教育総務課調べ

		H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	H32.3	H33.3	H34.3	H35.3
		卒業	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
県 内 合 計	卒業生数	18,382	17,797	17,842	17,450	17,409	16,758	16,438	15,724	16,159	16,016
	前年度対比	262	-585	45	-392	-41	-651	-320	-714	435	-143
	H26.3対比		-585	-540	-932	-973	-1,624	-1,944	-2,658	-2,223	-2,366

項目	数値	説明事項			備考
		前年度実績値	前年度計画値	前年度計画値との対比	

A 中学校卒業見込み生徒数 (人)	17,797	18,382	18,375	-585	この項のみ前年度実績対比
-------------------	--------	--------	--------	------	--------------

全 日 制	B 進学率 (%)	92.2	90.5	92.3	-0.1	
	C 進学者数 (人)	16,409	16,637	16,960	-551	$C = A \times B / 100$
	D 流出率 (%)	98.7	98.6	98.8	-0.1	過去3年の平均
	E 県内高校への入学者数 (人)	16,196	16,190	16,756	-560	$E = C \times D / 100$
	F 県立高校募集定員 (人)	12,600	12,925	13,065	-465	
	G 県内私立高校の募集定員 (人)	3,635	3,480	3,715	-80	
	H 県内公私立高校の総定員 (人)	16,235	16,405	16,780	-545	$H = F + G$

定 時 制	I 進学率 (%)	2.3	2.3	2.3	0.0	過去3年の平均
	J 進学者数 (人)	409	431	423	-14	
	K 県立高校募集定員 (人)	770	472	770	0	

特別 支援	L 進学率 (%)	0.9	0.9	0.9	0.0	過去3年の平均
	M 進学者数 (人)	160	159	165	-5	

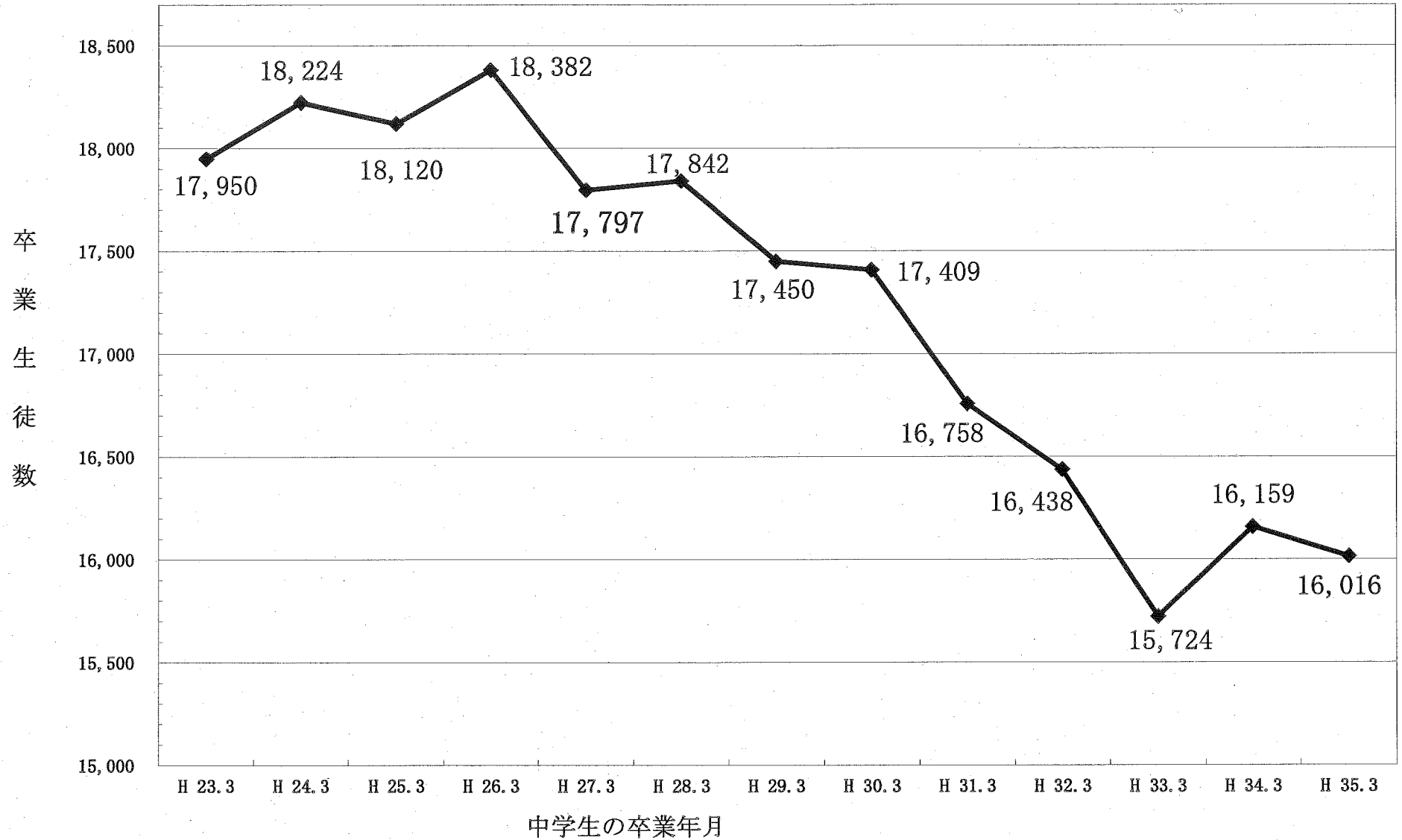
N 県内高校への入学者数に対する公私比率	77.8:22.4	78.8:21.2	78.0:22.2		
----------------------	-----------	-----------	-----------	--	--

(参考)

高 専	O 進学率 (%)	2.2	2.2	2.2	0.0	過去3年の平均
	P 進学者数 (人)	392	397	404	-12	

Q 進学者総数 (人)	17,370	17,624	17,952	-582	$Q = C + J + M + P$
R 総進学率 (%)	97.6	95.9	97.7	-0.1	

三重県中学校卒業者の推移と予測(含社会増)平成26年5月1日調査



三重県 中学校卒業者の推移と予測(含社会増)

平成26年5月1日 教育総務課調べ

		H 23.3 卒業	H 24.3 卒業	H 25.3 卒業	H 26.3 卒業	H 27.3 現中3	H 28.3 現中2	H 29.3 現中1	H 30.3 現小6	H 31.3 現小5	H 32.3 現小4	H 33.3 現小3	H 34.3 現小2	H 35.3 現小1
桑名	卒業者数	2,160	2,164	2,129	2,252	2,206	2,133	2,140	2,024	2,055	1,990	1,932	1,976	1,969
	前年度対比		4	-35	123	-46	-73	7	-116	31	-65	-58	44	-7
	H26.3対比					-46	-119	-112	-228	-197	-262	-320	-276	-283
四日市	卒業者数	3,753	3,751	3,922	3,925	3,778	3,859	3,821	3,848	3,628	3,585	3,404	3,606	3,417
	前年度対比		-2	171	3	-147	81	-38	27	-220	-43	-181	202	-189
	H26.3対比					-147	-66	-104	-77	-297	-340	-521	-319	-508
小計	卒業者数	5,913	5,915	6,051	6,177	5,984	5,992	5,961	5,872	5,683	5,575	5,336	5,582	5,386
	前年度対比		2	136	126	-193	8	-31	-89	-189	-108	-239	246	-196
	H26.3対比					-193	-185	-216	-305	-494	-602	-841	-595	-791
鈴鹿	卒業者数	2,360	2,508	2,473	2,657	2,568	2,630	2,472	2,520	2,458	2,392	2,217	2,409	2,230
	前年度対比		148	-35	184	-89	62	-158	48	-62	-66	-175	192	-179
	H26.3対比					-89	-27	-185	-137	-199	-265	-440	-248	-427
津	卒業者数	2,775	2,889	2,777	2,808	2,763	2,698	2,670	2,716	2,649	2,696	2,602	2,517	2,652
	前年度対比		114	-112	31	-45	-65	-28	46	-67	47	-94	-85	135
	H26.3対比					-45	-110	-138	-92	-159	-112	-206	-291	-156
伊賀	卒業者数	1,673	1,643	1,607	1,627	1,500	1,611	1,481	1,498	1,443	1,406	1,396	1,385	1,369
	前年度対比		-30	-36	20	-127	111	-130	17	-55	-37	-10	-11	-16
	H26.3対比					-127	-16	-146	-129	-184	-221	-231	-242	-258
小計	卒業者数	6,808	7,040	6,857	7,092	6,831	6,939	6,623	6,734	6,550	6,494	6,215	6,311	6,251
	前年度対比		232	-183	235	-261	108	-316	111	-184	-56	-279	96	-60
	H26.3対比					-261	-153	-469	-358	-542	-598	-877	-781	-841
松阪	卒業者数	1,962	1,977	2,066	2,025	1,988	2,001	1,985	2,007	1,916	1,925	1,787	1,861	1,931
	前年度対比		15	89	-41	-37	13	-16	22	-91	9	-138	74	70
	H26.3対比					-37	-24	-40	-18	-109	-100	-238	-164	-94
伊勢	卒業者数	2,508	2,558	2,452	2,398	2,317	2,275	2,268	2,192	2,078	1,970	1,861	1,882	1,961
	前年度対比		50	-106	-54	-81	-42	-7	-76	-114	-108	-109	21	79
	H26.3対比					-81	-123	-130	-206	-320	-428	-537	-516	-437
尾鷲	卒業者数	360	355	328	309	337	286	280	274	241	227	245	248	215
	前年度対比		-5	-27	-19	28	-51	-6	-6	-33	-14	18	3	-33
	H26.3対比					28	-23	-29	-35	-68	-82	-64	-61	-94
熊野	卒業者数	399	379	366	381	340	349	333	330	290	247	280	275	272
	前年度対比		-20	-13	15	-41	9	-16	-3	-40	-43	33	-5	-3
	H26.3対比					-41	-32	-48	-51	-91	-134	-101	-106	-109
小計	卒業者数	5,229	5,269	5,212	5,113	4,982	4,911	4,866	4,803	4,525	4,369	4,173	4,266	4,379
	前年度対比		40	-57	-99	-131	-71	-45	-63	-278	-156	-196	93	113
	H26.3対比					-131	-202	-247	-310	-588	-744	-940	-847	-734
県内合計	卒業者数	17,950	18,224	18,120	18,382	17,797	17,842	17,450	17,409	16,758	16,438	15,724	16,159	16,016
	前年度対比		274	-104	262	-585	45	-392	-41	-651	-320	-714	435	-143
	H26.3対比					-585	-540	-932	-973	-1,624	-1,944	-2,658	-2,223	-2,366

3 「グローバル三重教育プラン」に係る平成26年度の主な取組（教育委員会関係）について

社会、経済等のあらゆる面においてグローバル化が急速に進展する中、日本人・三重県人としてのアイデンティティを持ちながら、国際的な舞台で活躍し積極的に発信する力が求められています。この状況を踏まえ、三重県では平成26年2月に「グローバル三重教育プラン」を策定しました。平成26年度の主な取組については、以下のとおりです。

(1) 「主体性」に係る取組（自ら考え判断し主体的に行動する力）

○ スーパーグローバルハイスクール（SGH）【対象：高校生】

① 実施校

県立四日市高等学校

② 取組内容

グローバルリーダーの育成を目指す高等学校において、グローバルマインドを育成するためのプログラム・教育課程の研究開発、海外フィールドワーク等を実施する。

- ・ SGH論文指導

6つのテーマから1つを選択し、自分で見つけた課題について論文を作成、及び専門講師による指導（7月中旬～）

- ・ 「グローバルリーダー学」の設置

課題研究・論文の深化を目指す学校設定科目の設置
海外フィールドワークを実施（東南アジア訪問）

- ・ SGH講演会等

大学教授等による講演会を実施

第1回（6月上旬） 第2回（10月）

グローバル課題討論会（12月）

- ・ 白熱英語講座

英語による討論を中心とした課外授業（6月中旬～）

四高SGH スーパープレゼンテーション（12月中旬）

○ 高校生の留学の促進【対象：高校生】

① 取組内容

県内の高校生の海外留学について、長期留学とともに短期留学の資金を一部支援することとおして、実践的な英語の使用機会を創出するとともに、「世界の中の自分」を意識させ、自ら行動できる力を育成する。

長期派遣は、原則1年以上、一人30万円を上限に支援し、短

期派遣は、原則2週間以上、1人10万円を上限に支援する。

- ・ 長期派遣<国費>3人 募集期間：5月12日～6月20日
- ・ 長期派遣<県費>3人 募集期間：5月12日～6月20日
- ・ 短期派遣（第1次）<国費>
30人（宇治山田商業、海星高校それぞれ15人確定済み）
- ・ 短期派遣（第1次）<県費>
10人程度 募集期間：5月12日～6月20日
- ・ 短期派遣（第2次）<国費>
10人程度（未確定） 募集期間：4月25日～5月29日
- ・ 短期派遣（第2次）<県費>
10人程度 募集期間：9月16日～10月24日

○ **専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座【対象：小学生、中学生】**

① 取組内容

職業系専門学科の高校生（9校程度）が小中学校向けの体験メニューを提案し、当該メニューを通じた高校生と小中学生との異年齢交流・体験活動などを行うことにより、チャレンジ精神等を育む。

○ **中学生からの提案・発信【対象：中学生】**

① 取組内容

生徒会活動等、中学生が自分たちで身の回りにある課題を解決しようとする取組や提案を募集し、発信する。

② 予定

審査、優秀作品の決定（10月）
優秀作品の表彰、成果の公表（11月）
県教育委員会HPに掲載等（12月）

○ **ICTを活用した創造的な学びの実践【対象：高校生】**

① 取組内容

県立亀山高等学校において、タブレットパソコンを活用した協働学習や双方向型の授業を研究する。

② 予定

無線LAN導入授業の実施（9～10月）
研究成果発表会（2月）

(2)「共育力」に係る取組（共に成長しながら新しい社会を創造する力）

○ **「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」**

【対象：中学生】

① 取組内容

教材「三重の文化」「三重県心のノート」等を題材にした英語（1枚紙）によるコンテストを開催することを通じて、中学生が郷土三重についての理解を深め、積極的に対外的に発信できる力を育成する。

② 予定

審査、優秀作品の決定（10月）

優秀作品の表彰、成果の公表（11月）

県教育委員会HPに掲載等（12月）

○ **みえ未来人(みらいびと)育成塾【対象：高校生、大学生】**

① 取組内容

高校生（50人）及び大学生（5～10人）を対象に、広くテーマを設定し、企業人や社会起業家等の講義、留学生（5～10人）を交えたディスカッションなどを実施する。社会問題や地域課題、哲学等をテーマとした講座を実施し、若者のネットワークを構築するとともに、コミュニケーション力を育成する。

② 予定

主に夏季休業中に合計5日

○ **効果的な教材を活用した教育活動の実施【対象：小学生、中学生、高校生】**

① 取組内容

教職員研修や授業において、レゴ教材を取り入れ、自由な発想力や創造性を高めながら、子どもたちの人間関係形成能力、ソーシャルスキルの向上につなげる。

- ・ 小学校における英語コミュニケーション力向上事業
レゴ教材の活用に関する教員研修会（7～8月）
レゴ教材を活用した授業研究会（11月）
- ・ グローバル教育教職員研修推進事業
レゴ教材を用いた演習（8月下旬、50名）
- ・ 英語キャンプ
レゴ教材を活用した言語活動（12月下旬）

(3) 「語学力」に係る取組（外国語で積極的にコミュニケーションを図る力）

○ **高等学校英語教育モデルの構築【対象：高校生】**

① 取組内容

- ・ M i e S E L H i での取組

「CAN - DOリスト（各学年等の目標を設定）」の活用も含め、高等学校における効果的な英語指導法・教材の研究開発を進め、小・中学校との接続も意識した高等学校における英語教育のモデルを構築する。

- ・ 職業系専門学科での取組
高等学校における基礎英語力向上のための指導法や教材開発を進める。

○ 小学校における英語コミュニケーション力向上事業【対象：小学生】 ＜モデル校における「聞く」「話す」を中心とした英語指導法の研究・開発＞

① 取組内容

鈴鹿市（1小学校）、津市（2小学校、1中学校）、玉城町（4小学校）のモデル地域において、以下の取組を通して小学校における発達段階に応じた英語指導モデルを構築し、合同発表会で実践報告を行う。

- ・ 「イングリッシュ・タイム」の設定
- ・ ALT（外国語指導助手）の配置
- ・ フォニックス（英語の発音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法）の活用
- ・ レゴ教材の活用等

② 予定（モデル校連携協議会）

- ・ フォニックスに関する研修会（6月下旬）
- ・ レゴブロックの活用に関する教員研修会（7～8月）
- ・ レゴブロックを活用した授業研究会（11月）

＜県オリジナルの英語教材の作成＞

① 取組内容

「聞く」「話す」を中心とした英語によるコミュニケーション能力の素地を養うような音声教材等を作成する。

② 予定

音声教材等の完成（6月）後、県教育委員会HPに掲載（7月）
音声教材等の活用による英語学習の実施（9月～）

○ グローバル教育教職員研修推進事業【対象：中高英語教員】

＜英語指導力向上集中研修＞

① 取組内容

中高英語教員300名を対象に、子どもたちの英語力を育成する指導についての講座を実施する。

② 予定

第1回（7月下旬～8月上旬） 第2・3回（8月下旬）
（※ 第3回がレゴ教材を用いた演習）

○ **小学校における英語教育指導体制の充実【対象：小学校教員】**

全小学校において英語教育（外国語活動）の実施・推進を担う英語教育コーディネーター対象の集中研修を実施し、小学校における英語教育指導体制を確立する。（平成27年度以降に実施）

○ **英語キャンプ【対象：小学生、中学生、高校生】**

① 取組内容

小学生30人、中学生40人、高校生60人（予定）を対象に、英語のみを使用する環境（小学生は1日、中学生は2日、高校生は3日間の英語漬け活動メニューを実施）を創出することで、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

- ・ 参加者同士の交流
- ・ ディスカッション
- ・ レゴ教材の使用
- ・ プレゼンテーション

② 予定

- ・ 日時：12月下旬（小学生は日帰り、中学生は1泊2日、高校生は、2泊3日）
- ・ 場所：鈴鹿青少年センター

※ 英語関連学科設置校で、デイキャンプ（7 - 8月）を実施

○ **英語インセンティブ拡大プログラム【対象：高校生】**

① 取組内容

県内で行われる国際イベント等における外国人選手等との交流を通して、高校生が英語を「もっと話せるようになりたい」と思える機会を創出する。

② 予定

- ・ ミズノクラシックでの交流（11月上旬）
ゴルフのトッププロと交流することで、英語学習への動機付けを図る。
- ・ スポーツチームや音楽関係者との交流
高校生が、スポーツチームの外国人選手や外国からの音楽関係者と交流し、英語学習への動機付けを図る。

「グローバル三重教育プラン」について

1 プランの目的

社会、経済等のあらゆる面においてグローバル化が急速に進展する中、国際的な舞台で活躍し積極的に発信する力が求められるとともに、国内・県内にあっても、グローバルな視野（地球的視野）に立って自らの考えや意見を適切に伝え、日本人・三重県人としてのアイデンティティを持ちながら、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生できる能力や態度を身につけることが求められています。

「グローバル三重教育プラン」では、グローバル社会において求められる3つの力（「主体性」「共育力」「語学力」）を重視するとともに、三重県民としてこれらの力をバランスよく身につけ、生涯にわたりこれらの力を高めていくための具体的な方向性を示し、取組を進めることにより、三重県が国内外で信頼され「選ばれる地域」となることを目指します。

2 計画期間

平成26年度～28年度（3年間）

3 プランの特徴

- ・児童生徒の成長や発達段階に留意した取組
- ・学校と地域住民及び企業等との連携協力
- ・異年齢交流を通じた人間的成長の促進
- ・郷土三重などを世界に発信する力の育成

4 取組の方向性と成果指標

グローバル社会において特に求められる3つの力について、それぞれ取り組むべき方向性や成果指標は次のとおりです。

(1) 「主体性」（自ら考え判断し主体的に行動する力）

超高齢社会をはじめ、我が国が「課題先進国」としてさまざまな課題に直面する中、一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、立ちあがる壁を乗り越え、未来を切り拓いていく力

<取組の柱>

- ① チャレンジ精神・目的意識の向上
- ② 「志」の育成（特に、持続可能な社会づくりに貢献する意識と行動力）
- ③ 課題解決力の向上
- ④ 専門的知識・技術の習得

<主な取組>

- ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）【対象：高校生】
- ・高校生の留学の促進【対象：高校生】
- ・専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座【対象：小学生、中学生、高校生】
- ・中学生からの提案・発信【対象：中学生】
- ・ICTを活用した創造的な学びの実践【対象：高校生】
- ・経営人材育成ネットワーク支援【対象：社会人】

(2) 「共育力」(共に成長しながら新しい社会を創造する力)

一人ひとりが、郷土への愛着と誇りを持ちながら、それぞれのアイデンティティを確立・確認し、それを心の土壌として、異なる文化・伝統に立脚する人々とも協働しながら共に成長し、未来を創造していく力

<取組の柱>

- ① 発信型の郷土教育(日本人・三重県人としてのアイデンティティ)
- ② 異文化理解・多文化共生の促進
- ③ 将来を担う若者同士のつながり
- ④ コミュニケーション力の向上

<主な取組>

- ・郷土三重を英語で発信!～ワン・ペーパー・コンテスト～【対象:中学生】
- ・みえ未来人(みらいびと)育成塾【対象:高校生、大学生】
- ・効果的な教材を活用した教育活動の実施【対象:小学生、中学生、高校生】

<主な成果指標 (1)(2)共通>

- ・目標項目「海外留学(短期・長期を含む)を実施した県立高等学校数(58校)」
現状値(24年度)3校(長期のみ) ⇒ 目標値(28年度)58校

(3) 「語学力」(外国語で積極的にコミュニケーションを図る力)

グローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存も含め、持続可能な発展に向けた相互理解や国際協力等が求められる中、語学力、とりわけ国際的共通語となっている「英語」によりコミュニケーションを図り行動する力

<取組の柱>

- ① 英語指導モデルの構築(小学校からの英語教育の充実)
- ② 教員の英語運用力・専門性の向上
- ③ 英語使用環境の創出・拡大
- ④ 英語人口の裾野拡大

<主な取組>

- ・高等学校英語教育モデルの構築【対象:高校生】
- ・小学校における英語コミュニケーション力向上事業【対象:小学生】
- ・小中高等学校における英語教育指導体制の充実【対象:小学校教員、中高英語教員】
- ・英語キャンプの実施【対象:小学生、中学生、高校生】
- ・英語インセンティブ拡大プログラム【対象:小学生、中学生、高校生】

<主な成果指標>

- ・目標項目「卒業段階で英検準2級または2級以上相当の英語力を習得した高校生の割合(県立高等学校)」
現状値(24年度)29.8% ⇒ 目標値(28年度)45.0%以上
- ・目標項目「卒業段階で英検3級以上相当の英語力を取得した中学生の割合(公立中)」
現状値(24年度)26.1% ⇒ 目標値(28年度)45.0%以上

4 第25回全国産業教育フェア三重大会について

1 概要

- (1) 大会名 第25回全国産業教育フェア三重大会
- (2) 主催 文部科学省、三重県、三重県教育委員会、公益財団法人産業教育振興中央会、全国産業教育振興会連絡協議会、三重県産業教育振興会 等
- (3) 期 日 平成27年10月31日(土)、11月1日(日)
- (4) 会 場 三重県営サンアリーナ、三重県営総合競技場(体育館)、相可高等学校 他
- (5) 参加者 全国の専門高校等の生徒、県内特別支援学校高等部及び中学校生徒(参加者総数 のべ約10万人見込み(見学者含む))

2 趣 旨

産業界等との連携のもと、地域や日本の未来を担い、グローバルに活躍する職業人の育成を目指す産業教育の一層の振興を図るとともに、専門高校等の特色ある教育活動の成果と魅力を広く発表します。

3 内 容

- 作品展示：全国の専門高校等の生徒による作品展示、県内特別支援学校高等部及び中学校生徒による作品展示
- 販 売：農業学科生徒の生産物販売、商業学科生徒の開発商品販売等
- 競技会等：全国高等学校ロボット競技大会、全国高校生介護技術コンテスト、全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト、全国高校生クッキングコンテスト
- 発表会：県内高校生によるファッションショー
- 研究発表：全国作品・研究発表、全国意見・体験発表 等
- 体験コーナー：県内高校生等によるものづくり教室、キッズビジネスタウンみえ 等

4 平成26年度の取組状況と今後の予定

「第25回全国産業教育フェア三重大会準備委員会」を組織し、今後は準備委員会事務局(高校教育課)が中心となり、関係教職員の連携のもと催事要項、募集要項の作成、広報活動など、大会開催に向けた準備

を進めていきます。

- 準備委員会（第1回：5月9日開催、第2回：2月下旬開催予定）
- 運営委員会及び幹事会（第1回：5月12日開催
第2回：9月下旬
第3回：1月中旬 開催予定）
- 生徒準備委員会（6月下旬から3月上旬までの計7回開催予定）
- 実行委員会（平成27年4月以降早い時期に組織化）

5 第三次三重県子ども読書活動推進計画（中間まとめ案）について

1 経緯

県は、平成 13 年 12 月に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国（市町においては国及び県）の計画を基本として、子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならないとされています。

これを受け、県は、読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発の 3 つの観点に基づき、平成 16 年 3 月に第一次計画となる「三重県子ども読書活動推進計画」を、平成 21 年 11 月に「第二次三重県子ども読書活動推進計画」（以下「第二次計画」という。）を策定し、計画期間をおおむね 5 年間として、家庭、地域、学校等において子ども読書活動の推進を図ってきました。

現在、さらなる推進のため、「第三次三重県子ども読書活動推進計画」（以下「第三次計画」という。）の策定（平成 26 年 11 月～）に向けて、国の第三次計画で引き続き示された基本の方針に基づき、三重県子ども読書活動推進会議等で検討しています。

【国】

第一次計画（平成 14 年 8 月～）
第二次計画（平成 20 年 3 月～）
第三次計画（平成 25 年 5 月～）
計画期間：概ね 5 年間

【県】

第一次計画（平成 16 年 3 月～）
第二次計画（平成 21 年 11 月～）
第三次計画（平成 26 年 11 月～）
〈策定中〉 計画期間：概ね 5 年間

2 第二次計画の成果と課題

推進会議等において、各主体別に成果と課題の検証を行ったところ、それぞれの取組による個別の成果はあるものの、相互に連携・協力し社会全体で取り組む具体的方策についてやや乏しいとの意見がありました。

（1）家庭

様々な啓発事業を実施しましたが、若い保護者の価値観等が近年急激に変化し、家庭における読書の意義の啓発が困難になっています。

「全国学力・学習状況調査」によると、小中学生が家庭や図書館で読書を全くしない割合が全国平均より高く、読書習慣が十分に定着していない状況です。（別添資料 P 29 資料 I 2）

（2）地域

公立図書館による、積極的な取組の成果として、県内公立図書館の児童書貸出冊数が成果目標を達成しました。（別添資料 P 2（4））

今後は、これまで以上に家庭や学校等に向けて読書の意義の普及に取り組むことが求められます。

(3) 学校等

幼稚園、保育所での取組や、小中学校における全校一斉読書活動の取組が行われるとともに、読書ボランティアとの連携が推進されました。(別添資料 P 30 資料 I 10、13)

また、県教育委員会実施の「学力向上のための読書活動推進事業」を活用した町による司書配置の事業化などの成果がありました。

一方、小中学校の学校図書館図書標準達成率が全国平均を下回り、人員配置についても未だ十分ではありません。

(別添資料 P 29 資料 I 6、7)

3 第三次計画の基本的な方針

国の第三次計画において、家庭、地域、学校等を通じた社会全体における取組、子どもの読書を支える環境の整備、読書の意義の普及啓発などが基本的方針として位置づけられています。県においても、国の基本的方針を踏まえたうえで、第二次計画における成果と課題を受け、次の基本的な方針に基づき子ども読書活動のさらなる推進を図ります。

- (1) 家庭、地域、学校等における、読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発の3つの観点に沿った取組を相互に連携・協力し社会全体で促進
- (2) 家庭、地域、学校等の取組を支援するための助言や情報提供
- (3) 子どもの読書活動の意義について県民の理解を深めるための広報啓発活動の実施

4 三重県独自の取組方向

～読書をととした地域づくり、子どもの育ちと学びの推進～

三重県独自の新たな取組方向として、多様な主体が連携・協力して、図書館が有する教育、子育て、産業支援など地域の課題解決支援機能を活用するなど、多方面からの読書活動を図ること、また、読書活動の推進を取組の柱の一つとする「みえの学力向上県民運動」と連携する必要性のあることから、方向性を次のとおりとします。

- (1) 人と人をつなぎ、豊かな地域づくり、地域活性化を推進する読書活動
- (2) 五感を使いながら子どもの心と身体を育み、確かな学力の基盤を築く読書活動

5 各主体別の主な方策

「3 第三次計画の基本的な方針」と「4 三重県独自の取組方向」を2つの軸として組み合わせ、課題解決に向けた主な方策を次のとおりとします。県及び市町は、様々な方策を進めるため、所管する図書館や学校図書館等における図書等の整備や人的配置の推進などの機能強化に努める必要があります。

(1) 家庭

- ①音読や朗読（声に出す、聴く）、本の感想を書き合う語り合う読書リレーなど、大人も一緒に読書に親しむ「ファミリー読書」の推進
- ②健康福祉部等と連携した幼稚園・保育所、認定こども園等への啓発

(2) 地域

公立図書館や公民館等を核として、地域の施設（博物館等）や地域の歴史や文化、産業の振興等に関わる様々な主体が相互に連携・協力した事業実施による啓発の拡大（例：体験・伝承講座とブックトーク等複合的な活動）

(3) 学校等

- ①正しい言葉や豊かな表現力を身に着け、言語能力を育む音読・朗読、ビブリオバトル、情報活用能力を育む調べ学習等の推進
- ②地域や保護者と連携した取組の充実

6 県及び市町における子どもの読書活動推進体制

- ・それぞれの推進計画等において可能な限り具体的な目標を設定し、その達成状況等に関する点検及び評価
- ・学校、図書館、民間団体等が相互に情報交換等を実施し、連携・協力できる体制の整備

7 成果指標について

- ・各主体の読書活動の実態をより表す指標に置き換えるとともに、全体項目数を1項目増加（6項目→7項目）

8 今後のスケジュール

- (1) 平成26年7月にパブリックコメントを実施し最終計画案を作成
- (2) 10月の県議会教育警察常任委員会において最終計画案を報告後、教育委員会定例会の議決を経て11月に策定

成果指標 比較表

第三次計画の成果指標、目標数値					第二次計画の成果指標、目標数値				
目指す成果	指標		25年度	30年度目標		成果指標		25年度	目標数値
家庭において読書習慣が身につく	(新) 家庭または図書館で平日に読書を全くしない児童生徒の割合	小学校	22.8% (全国20.8%)	20.0%	←	—		—	—
		中学校	37.2% (全国36.0%)	35.0%		—		—	—
地域において公立図書館をはじめとした様々な主体が連携して読書活動が推進される	ボランティアと連携している県内公立小・中学校の割合	小学校	〈H24〉 69.0% (全国81.2%)	72.0%	←	ボランティアと連携している県内公立小・中学校の割合	小学校	〈H24〉 69.0% (全国81.2%)	72.0%
		中学校	〈H24〉 23.9% (全国27.2%)	25.0%			中学校	〈H24〉 23.9% (全国27.2%)	18.0%
	県内公立図書館の児童書貸出冊数		2,523,302冊	2,723,000冊		県内公立図書館の児童書貸出冊数		2,523,302冊	2,325,000冊
学校において組織的に読書活動が推進され、確かな学力の基盤が築かれる	全校一斉読書活動を実施する県内公立小・中学校の割合(週に2回以上実施する割合)※	小学校	73.9% (全国61.9%)	80.0%	←	全校一斉読書活動を実施する県内公立小・中学校の割合(年に1回以上実施する割合)※	小学校	〈H24〉 92.8% (全国96.4%)	95.0%
		中学校	83.2% (全国79.4%)	89.0%			中学校	〈H24〉 78.0% (全国88.2%)	83.0%
	(新) 学校図書館担当職員を配置する県内公立小・中学校の割合	小学校	37.4% (全国49.3%)	50.0%	←	—		—	—
		中学校	49.1% (全国48.2%)	53.0%		—		—	—
	(新) 学校図書館を活用した授業を計画的に(学期に数回以上)行っている県内公立小・中学校の割合	小学校	76.2% (全国78.6%)	79.0%	←	—		—	—
		中学校	31.1% (全国41.6%)	42.0%		—		—	—
(新) 高等学校図書館で実施された授業の延時間数	〈H24〉 2,844時間		3,100時間	←	—		—	—	
—	—		—	←	県教育委員会開催の読書活動推進のための講演会参加者数		435人	1,000人	
—	—		—	←	県立図書館における専門的研修会の開催回数と参加者数		10回 475人	15回 400人	
—	—		—	←	学校図書館を保護者や地域住民に開放している県立高等学校		78.0%	90.0%	

・項目数 6→7(新規4、廃止3、区分等変更1)

※全校一斉読書活動に関する調査は「学校図書館の現状に関する調査」から「全国学力・学習状況調査」へ変更(隔年調査から毎年調査で把握するため)、区分を「週に2回以上実施する割合」とすることで、より組織的、継続的な取組を促進する指標とする。

6 伝統的漁業の文化財保護と今後の国指定に向けた取組及び世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録10周年に向けた取組について

(1) 伝統的漁業の文化財保護と今後の国指定に向けた取組について

① 伝統的漁業を取り巻く現状

- ・ 漁業従事者数

平成25年三重県教育委員会調査

全国	1,849人
三重県	978人

- ・ 自然環境の変化による漁獲量の減少と、漁民の高齢化のため、本県の漁業従事者が平成元年（1,937人）より半減し、漁業の保存と継承が困難な状況

② 本県の文化財指定に向けた取組

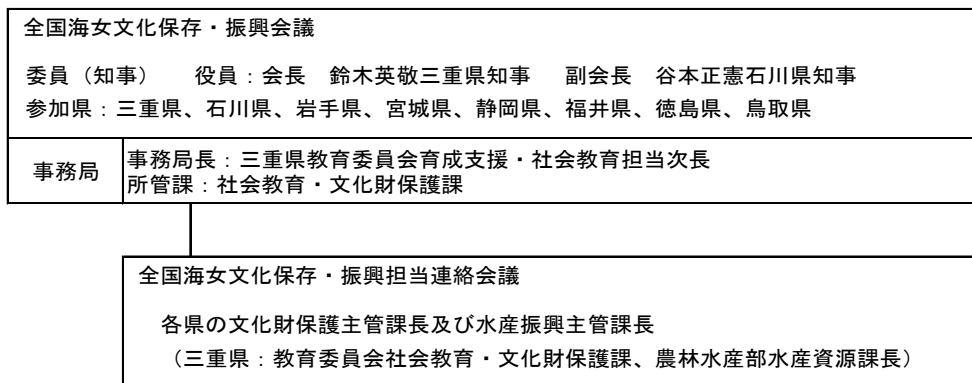
- ・ 漁業の民俗文化財調査実施（平成22年度～25年度）
- ・ 全国で初となる「漁民保存会」の設立（平成25年5月18日）
目的；漁業の文化財としての保存と継承
会員数；559人
- ・ 全国で初となる「鳥羽・志摩の漁民による伝統的素潜り漁技術」を、県無形民俗文化財に指定（平成26年1月23日）
- ・ 「全国漁民文化保存・振興会議」の設立（平成26年1月24日）
目的；文化財保護と水産振興の両面からの漁業の存続
参加県；三重県、石川県、岩手県、宮城県、静岡県、福井県、徳島県、鳥取県
- ・ 早期の国重要無形民俗文化財指定に向けた要望活動
文化庁長官；平成26年2月10日
文部科学大臣；平成26年5月28日

③ 今後の方針

- ・ 国に対して、文化財指定について働きかけの継続
- ・ 民俗文化財としての漁業の映像記録を作成（平成26～28年度）
*ユネスコ無形文化遺産の代表一覧表記載を視野
- ・ パネル展の開催（平成26年11月～平成27年2月）
- ・ 漁民保存会の活動を支援

【参考】

○全国海女文化保存・振興会議のイメージ



(2) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録10周年に向けた取組について

① 現状と概要

- ・ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は平成16年7月7日に世界遺産に登録されてから、平成26年に登録10周年
- ・ 教育委員会ではこれまで、良好適正な保存と活用の実現のため、文化庁や奈良・和歌山県、及び関係市町と連携した取組を推進

② 今後の方針

a 10周年記念事業

ア トークセミナーの実施と電子書籍の出版

目的：世界遺産の価値、魅力の広報及び文化財保護意識の次世代への継承

実施予定：対談形式のセミナーを10月に東京都内で開催予定。その内容について教材化を含む電子書籍化

イ 日本の世界遺産パネル展の開催

時期：平成26年7月12日（土）～20日（日）延べ8日間（月曜休館）

場所：熊野市文化交流センター

内容：「紀伊山地の霊場と参詣道」ほか、計17件の国内世界遺産を紹介する写真パネルの展示

ウ 世界遺産登録10周年記念シンポジウムの開催

主催：世界遺産三県協議会（三重、和歌山、奈良県で構成）

実施予定：対談及びパネルディスカッションを8月に大阪市内で開催予定

b 横垣峠の復旧について

- ・ 平成23年9月の紀伊半島大水害が原因による、御浜町の横垣峠道に通行困難区間が存在
- ・ 参詣道の一部については、文化庁の国庫補助金及び復旧事業が完了。
- ・ 通行困難区間は、並行する林道を利用して、全線徒歩通行が可能となるよう対応済

7 審議会等の審議状況（平成26年2月17日～平成26年6月2日）

（教育委員会）

1 三重県教育改革推進会議

1 審議会等の名称	第1回三重県教育改革推進会議（全体会）
2 開催年月日	平成26年5月26日
3 委員	会長 山田 康彦 副会長 向井 弘光 委員 梅村 光久 他17名（出席者計16名）
4 諮問事項	次期三重県教育ビジョン（仮称）の策定について 三重県特別支援教育総合推進計画（仮称）の策定について
5 調査審議結果	<p>平成26年度の審議のテーマを「次期三重県教育ビジョン（仮称）の策定」「三重県特別支援教育総合推進計画（仮称）の策定」の2つとし、今後の審議スケジュールについて確認しました。</p> <p>また、次期三重県教育ビジョン（仮称）の策定に向けた考え方等を確認し、基本理念等を整理するために、教育を取り巻く環境変化や諸課題等について意見交換を行いました。</p> <p>（主な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済格差が広がっているが、家庭の経済状況にかかわらず教育機会を保障していくことが重要である。 ・ 学力向上については、家庭の教育力向上と、経済界とも連携した県民総参加の取組を一層進めるべきである。 ・ グローバル教育については、幼児期から英語に触れる機会を増やすとともに、コミュニケーション力を高めることが大切である。あわせて、母国語の向上も重要である。 ・ 次期教育ビジョンでは、三重県の強み・弱みを分析したうえで、三重県の独自性、先進的な取組を示していくことが必要である。 ・ 少子化と高齢化が進む中で今と同じ形での義務教育が維持できるのかという観点での検討が必要である。持続可能なまちづくりのために、少子高齢社会におけるモデル的な教育の取組ができないか。
6 備考	<p>次回開催予定</p> <p>第1回第2部会 平成26年 6月26日 第2回全体会 平成26年 8月 5日</p>

2 三重県教科用図書選定審議会

1 審議会等の名称	第1回三重県教科用図書選定審議会
2 開催年月日	平成26年4月24日
3 委員	会長 藤田 達生 副会長 古金谷 初美 委員 井土 和久 他17名 (出席者17名)
4 諮問事項	平成27年度に小学校で使用する教科用図書の採択について
5 調査審議結果	<p>平成27年度に小学校で使用する教科用図書の採択について、市町教育委員会等に対して指導、助言又は援助するための資料として、以下の(1)～(4)について審議を行いました。</p> <p>(1) 教科用図書採択地区協議会規約例について (2) 教科用図書採択地区における小学校で使用する教科用図書の採択基準について (3) 三重県教科用図書選定審議会調査員の調査実施項目について (4) 三重県教科用図書選定審議会調査員の選任について</p>
6 備考	・第2回三重県教科用図書選定審議会は、平成26年6月16日に開催されました。

3 三重県社会教育委員の会議

1 審議会等の名称	三重県社会教育委員の会議
2 開催年月日	平成26年2月20日
3 委員	座長 東福寺 一郎 委員 長 島 洋 他4名 (出席6名)
4 諮問事項	「『みえの学力向上県民運動』における社会教育のあり方」について
5 調査審議結果	<p>「みえの学力向上県民運動」における社会教育のあり方について審議しました。</p> <p>〈主な意見等〉</p> <p>①「みえの学び場」の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのふれあいやつながりを大切にするために、同じメンバーで継続的に活動するとよい。 ・同じような活動が、同じ日に重ならないよう、情報交換や調整をする必要がある。 <p>②子どもの学ぶ力を育むための、平成26年度の視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年など長期の活動については子どもに任せ、自己判断、自己決定させることが必要である。不安や困ったことから学びが始まる。 ・子どもの話し合いは、経験を重ねると次第に工夫するようになる。子どもを信じて任せ、自由に話し合わせることで、子どもは自分で学び、自己肯定感も育っていく。 ・教員にも、地域との連携の大切さを学べるよう、初任者研修などの総合教育センターの講座に社会教育の内容を組み入れるとよい。子どもたちには、自己肯定感に加え、「自分は一人じゃない、誰かが支えてくれている。」という存在感を高める働きかけも必要である。
6 備考	次回開催日：平成26年7月15日